

International University of Health and Welfare
「共に生きる社会」の実現をめざして

2025.9.30 発行

vol.142

IUHW



特集

開学30周年特別企画第二弾 夏のオープンキャンパス

赤坂国際フェスティバルにて



国際医療福祉大学
INTERNATIONAL UNIVERSITY OF HEALTH AND WELFARE



vol.142 September 2025

02 国際の集い
赤坂国際フェスティバル

04 特集1
開学30周年特別企画
記念イベント概要／30周年
事業のご紹介／30周年特設
サイトのご紹介

07 キャンパスレポート

08 特集2
各キャンパスで開催！
夏のオープンキャンパス

10 医学部海外臨床実習

11 トピックス
・ 本学グループと柳川高校が
包括的連携協定締結
・ キッズスクール開催
・ あいおいニッセイ同和損害
保険奨学生認証式
・ IUHW奨学金授与式

13 年間成績優秀賞

14 施設インフォメーション
国際医療福祉大学成田病院
国際医療福祉大学病院
国際医療福祉大学三田病院
国際医療福祉大学熱海病院
国際医療福祉大学市川病院
国際医療福祉大学塩谷病院
山王病院

16 キャンパスプラス1
クラブ・サークル紹介
フタ芸同好会ルテア
(大田原キャンパス)

＜お詫び＞
 広報誌UHW141号に下記の誤りがありました。
 謹んでお詫びし訂正させていただきます。
 P3 見出し
 (誤) 2024年4月8日→正) 2025年4月8日
 P20 2005年
 空撮写真が異なる年代のものでした。
 webサイトに掲載のバックナンバーでは修正版
 をご覧いただけます。



開学30周年特別企画

前号の141号に続く第二弾の今回は、11月に開催される記念式典の概要や現在進められている30周年事業について、そして開学30周年を記念して開設された30周年特設サイトについて紹介します。

開学30周年記念式典・風花祭・同窓会開催!

開学の地・大田原キャンパスでは11月1日～3日の3日間、「開学30周年記念式典・風花祭・同窓会」を開催します。本学ゆかりの方々や同窓生とともに、これまでの本学の歩みを振り返り、開学30周年をお祝いします。

11月1日

国際医療福祉大学 開学30周年記念式典

那須野が原ハーモニーホールにて開催予定。

11月2・3日

国際医療福祉大学 開学30周年記念風花祭・同窓会

大田原キャンパスで 学生の露店やステージなど例年行われる催し物に加え、同窓会・オータムフェスタ・健康フェアも30周年記念祭として同時開催! 学生や関係者だけでなく、地域の方々や国際医療福祉リハビリテーションセンターをはじめとした施設利用者とご家族も楽しめる企画実施を予定している。



11月2・3日に予定されているプログラム

- 軽音部やダンス部による学生ステージ
 - 熱気球サークルによる熱気球体験
 - 「世界のグルメ大集合!」キッチンカー
 - 進学相談会
 - ＜同時開催＞: 高校生限定! 学科教員・入試担当者との個別相談が可能。
 - 杉村太蔵氏・武見敬三氏の特別記念講演
 - ホースセラピー体験
 - サンリオキャラクター スペシャルステージ
 - 地元大田原市出身のU字工事によるお笑いライブ
 - 3000発の大花火大会
 - ぱーてぃーちゃん・THE SUPER FRUITも登場! etc.
- ※プログラムは変更になる場合がございます。
※詳細は「30周年特設サイト」の「イベント・プロジェクト」ページをご確認ください。(P.6参照)

ご存じ
ですか?

本学ウェブサイトから
広報誌IUHWバックナンバーが第1号から読めます!

<https://www.iuhw.ac.jp/magazine/>



1995年6月30日に第1号が発行された広報誌IUHW。当初は、2色刷、6ページの冊子でしたが、25号からは表紙がフルカラーとなり、ページ数も徐々に増え、現在の体裁となりました。本学ウェブサイトにはこの広報誌IUHWを第1号から最新号まですべて掲載。ページを繰るたびにその時々の本学の様子に触れることができます。この機会にぜひご覧ください。



●広報誌IUHW 第1号



●広報誌IUHW 第141号

続々進む! 30周年記念事業

学内各所で次々に進められている30周年記念事業。今回は、学生が使用する新しい校舎開設や、グラウンド・テニスコートなどの整備について紹介します。



大田原キャンパス



医学検査学科などが使用するP棟

今年4月に大田原キャンパスに開設した医学検査学科などのための新棟。2024年8月9日に起工式が行われて以来、着々と工事が進められ、2025年8月に完成した。真新しい校舎は後期授業から徐々に使用される予定だ。

医学検査学科は、本学では大川キャンパス、成田キャンパスに続き、今回の大田原キャンパスで3つ目の開設となった。東北地方および栃木県下の四年制私立大学では、臨床検査技師を養成する唯一の学科となるため、地元からの期待も大きい。



●P棟内観



●P棟外観

グラウンド・テニスコート5面・フットサルコート2面

大田原キャンパスのグラウンドは、2026年3月末の完成を目標に整備が進められている。またテニスコート5面・フットサルコート2面についても、10月末の完成を目標に現在改良工事が進められている。



●グラウンド完成予想図



●テニスコート・フットサルコート完成予想図



●完成予想図



成田キャンパス



畑ヶ田校舎



成田薬学部のための薬学部棟として機能する畑ヶ田校舎は、国際医療福祉大学成田病院の隣地に立地している。現在着々と工事が進められており、2026年2月末に竣工、4月から使用開始となる予定。

新グラウンド(三里塚)



成田キャンパスに通う学生用のグラウンドとして整備が進められている新グラウンド。現在、トイレや更衣室の整備を進めている。11月に行われる成田キャンパスの運動会もこのグラウンドで開催予定。

「国際医療福祉大学30周年特設サイト」開設!

<https://www.iuhw.ac.jp/30th/>

開学30周年を記念して、本学のウェブサイト「国際医療福祉大学 30周年特設サイト」を開設しました。本サイトでは、日本初の医療福祉総合大学として歩んできた本学の30年間を写真とともに振り返る歴史沿革や、開学当時を知る第一期生を中心に同窓生から寄せられたメッセージを掲載。ほかに、開学30周年記念募金やふるさと納税による大学支援についても紹介しています。今後も、30周年を記念して行われる取り組みや、11月開催の記念式典について掲載していきますので、右のQRコードからぜひご覧ください。



●特設サイトトップには現在の大田原キャンパスの様子をさまざまな角度からドローン撮影した動画がアップされている。

歴史沿革

開学準備から今日までの本学の歩みを、秘蔵写真とともに時系列で振り返ることができる。



イベント・プロジェクト

11月1日～3日開催の開学30周年記念イベントや30周年事業についての詳細はこちらに掲載。

祝!開学30周年 同窓生からのメッセージ

本学とともに歩みを進めてきた同窓生からの開学30周年を祝うメッセージを掲載。メッセージはこれからも随時アップ予定!



国際医療福祉大学 同窓会『マロニエ会』サイトにログインして母校や同窓生とつながりましょう!

国際医療福祉大学 同窓会
『マロニエ会』サイトはこちら

国際医療福祉大学とLINEで友だちになりませんか?
母校の最新情報に触れられます!

LINE友だち追加はこちら
@889usywa



今年も各キャンパスで行われた運動会。あいにく天候には恵ま
れず、大田原キャンパスでは体育館での開催に変更したほか、大
川キャンパスでは運動会そのものが中止となった。予定通り開催
されたキャンパスでは、競技に参加する学生たちの躍動感と笑顔
あふれる様子が見られた。運動会が行われなかった大川キャン
パスは夏祭りの様子をお届けする。
(成田キャンパスの運動会は三里塚の新グラウンドで11月9日に
開催を予定。)



●体育館いっぱいに広がって準備体操!
(東京赤坂キャンパス)

5月17日(土)

東京赤坂キャンパス



●優勝したチームのメンバー



●「Morlock」で狙いを定めて
棒を投げる学生

5月17日、心理学科・医療マネジメント学科の1年生を中心に運
動会を開催した。当日は両学科の学生と教員を合わせ、総勢約70
人が参加し、にぎやかな雰囲気の中で交流を深めた。本イベントは、
両学科にとって初めての合同行事となり、学生同士が親睦を深める
貴重な機会となった。競技は、棒を投げてスキットルを倒す「Morl
ck」と、「ドッジボール」の2種目で、白熱したトーナメント戦が行われ
た。各チームは景品をかけて真剣勝負を繰り広げ、大いに盛り上った。
学科を超えた交流により、学生生活の思い出深い一日となった。
(事務部 富崎知尋)

大田原キャンパス

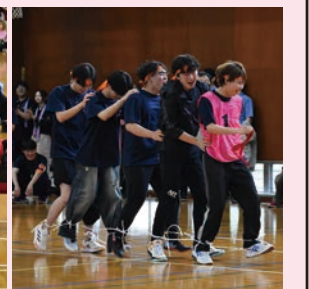
5月17日(土)

5月17日、記念すべき第30回運動会は雨天のため体育館で開催
された。最初の玉入れでは先生たちも参戦し、歓声と笑いが絶えず
大いに盛り上がった。応援合戦では、屋内のためより声がこぼまし、
一つひとつの演目に迫力を感じた。大縄では、各学科が一致団結し
みんなで声を掛け合い、絆を深めた。最後のムカデリレーでは全員
が息を合わせて力をつにし、喜びも悔しさも分かち合う姿が印象
的だった。最後まで熱戦が繰り広げられた今年の運動会の結果は
理学療法学科が総合優勝、応援合戦では、看護学科が優勝し、甘
露の雨の中、皆の心が満ちて幕引きとなった。

(実行委員長 医療福祉・マネジメント学科 2年 若松勇樹)



●気合の入った応援合戦



●盛り上がりを見せたムカデ競争

6月14日(土)

小田原キャンパス



●閉会式後の集合写真



●大縄跳び

6月14日、第20回運動会～運動不足解消の会～が開催された。
今年度は、城内校舎体育館とグラウンドで同時に競技を行い、実に7
種目(フットサル、竹取物語、バスケットボール、大縄跳び、バレーボ
ール、パン食い競争、団体対抗リレー)の競技を競った。学生たちは活気
に満ちあふれ、白熱した運動会となった。

看護学科、理学療法学科、作業療法学科1・2年次生から約220人
もの学生が集まり、10チームごとにお揃いのピブスを纏った。一致団
結して皆で競技に臨む様子は、チーム医療や多職種連携にも繋がるよい
経験となったのではないだろうか。
(学務課 上原遥香)

大川キャンパス

8月2日(土)

8月2日、大川キャンパスのグラウンドで毎年恒例の「大川市民夏
まつり」(共催/国際医療福祉大学・大川市観光協会)を開催した。
地域貢献活動の一環として本学の学生も多数参加。フィナーレの花
火まで、キャンパスは笑顔と熱気に包まれた。

まず、1年生が「スーパーボール・ヨーヨーすくい」や「お化け屋
敷」といったキッズ向けコーナーを担当。軽音楽部がステージイベ
ントに花を添え、学科やサークルごとに参加した学生ボランティアが、
バラエティに富んだ模擬店を展開して、まつりを大いに盛り上げた。
(広報 帆足リエ)



●学生による屋台も大盛況



●1年生が担当したキッズコーナー

●4号館前はチョークアートコーナーに

Summer Open Campus

夏のオープンキャンパス

今年も全国5キャンパスで夏のオープンキャンパスを開催した。各キャンパスともに、多くの高校生や保護者の方々が来場し、楽しみながら医療福祉分野の学びと仕事の魅力に触れた。オープンキャンパスを通じて、来場者した方々に、本学のキャンパスや学生たちを身近に感じてもらうことができた。参加した学生たちにとっても貴重な夏休みとなった。



大田原キャンパス



●引き馬体験で馬と触れ合う参加者

8月3日、4日、9日、10日の4日間で開催された夏のオープンキャンパスは、栃木県をはじめ東北地方、関東地方の各地から延べ4,000人を超える来場があった。イベントでは、学科体験や学食体験を通じた大学生活の紹介に加え、大田原市内を巡るバスツアーや、10月から始まる入試を見据えた小論文や面接、



●多くの高校生が参加した無料学食体験

英語の対策講座などが大好評。また8月4日限定の特別企画では、「動物がもたらす癒しとウェルビーイング」をテーマに、引き馬体験や特別講演も実施し、高校生をはじめとする、多くの参加者の笑顔と感動があふれるひとときになった。
(入試広報室 齋藤萌々花)

東京赤坂キャンパス



●学生と直接話せる学生カフェ

オープンキャンパスの人気企画のひとつが学生カフェ。カフェでくつろぐような雰囲気の中、在学生が笑顔でお迎えする。教員や入試専門職員との個別相談ブースとは異なり、実際の授業スケジュールや実習のこと課外活動など、気になることを在学生に気軽に質問できるのが魅力だ。参加者からは「学生と直



●軽音サークルライブ



●キャンパスツアー

接話せて大学生活のイメージが湧いた」「先輩の話を聞いて、勉強も楽しそうで入学意欲が高まった」といった声が毎回寄せられる。大学生活のリアルを知ることができ、未来のキャンパスライフを身近に感じてもらえるひとときとなった。
(事務部 富崎知尋)

小田原キャンパス



●作業療法学科VR体験

7月20日、8月10日、17日に小田原保健医療学部（看護学科、理学療法学科、作業療法学科）のオープンキャンパスを開催、昨年度を上回る来場者でどのイベントも賑わいを見せた。学科紹介では実習室をオンラインで生中継した臨場感ある説明や、充実した学科体験、受験対策として学年別入試ガイダンス



●理学療法学科車いす体験



●学生カフェでの個別相談

スや英語対策講座、スポーツドクターによる特別講演企画、熱海病院DMAT職員による仕事の魅力を紹介、在学生によるキャンパストークを行った。来場者からは大学の雰囲気や職種理解が深まったという感想が寄せられた。
(学生募集・広報係 郡司友里)

成田キャンパス



●顕微鏡ミュージアム（医学検査学科）



●高機能シミュレータ体験（看護学科）



●在学生と話そうコーナー（医学科）

7月27日に医学部オープンキャンパスを開催。大学紹介、IUHWの英語教育紹介のほか、学生と話そうコーナー、学生によるSCOPE（成田シミュレーションセンター）見学などを実施した。本学医学部の教育の特長、施設の充実ぶりを身近に感じてもらう機会となった。参加者からも、「SCOPE見学で、施設が充実していて、最先端の医療が学べる環境にとっても惹かれました。学生の方が明るくて、国際的な校風が他の大学の医学部と違って、この大学で学びたいと強く思いました」との声があがった。

8月3日には成田看護学部、成田保健医療学部、成田薬学部、介護福祉特別専攻科のオープンキャンパスを開催。来場者は1,700人を超えた。大学紹介や養成する医療福祉職の紹介、入試説明に加え、先輩トークの「関連職種連携教育」では在学中から学ぶチーム医療・チームケア、他学科の学生と共同することで得られる学びを紹介。学科フロアでは学科紹介をはじめとするさまざまな体験企画でにぎわった。
(広報 城貴弘)

大川キャンパス



●ドライビングシミュレーター体験



●医学検査学科で採血体験



●VRリハビリテーション・スポーツ研究センターで

この夏、大川キャンパスでは、高校生を対象に3回のオープンキャンパスと、4学科でのプレミアムカレッジを開催した。オープンキャンパスでは、学科体験プログラムに加えて、講堂を会場にした「学科探究アクティビティ」を実施。理学療法学科によるパラスポーツ体験、医学検査学科による真空パックを使った「臓器の名前が分かるかな?」、薬学科の「薬匙を使った薬のピツリ測りとりチャレンジ!」などが人気を博した。
新しい取り組みとしては、大川VRリハビリテーション・スポー

ツ研究センターを開放してのVR体験コーナーのほか、作業療法学科でのドライビングシミュレーター体験や片手で料理体験、看護学科での災害時避難所体験などがあり、参加者からは「他の大学と違ってプログラムや体験が充実していた」「体験が楽しくて、いろいろな学科に興味が出た」「パンフレットだけでは知ることができない、学科や大学の良さが伝わってきた」といった声が寄せられた。
(広報 帆足リエ)

世界の28か国・地域に134人が参加

医学部4期生の海外臨床実習（必修）は今年春、海外提携校での実習は原則4週間、個人渡航の場合は最大10週間を上限として行われた。学生たちの渡航先は、アジア、アフリカ、欧米諸国の28か国・地域に及んだ。実習先提携校には中国の北京大学が初めて加わった。4期生のほぼ全員の

134人が参加。このうち個人で海外の受け入れ先を決め交渉して実習先を決めた参加者は51人に上り、中には南アフリカやネパールでの実習を決めた学生も。いずれも国内では得られない貴重な体験を積んだ。

以下は、米国内4州の医療機関で実習を行った山田愛実さんとモンゴルで研修を行った佐藤大介さんのレポートを紹介する。

山田愛実さん 〈ペンシルベニア州トーマスジェファーソン大学病院、ワシントン州立大学家庭医療科クリニック、ルイジアナ州退役軍人病院、フロリダ州アーノルド・バーマー小児病院（いずれも米国）〉

6週間、4つの州で研修

米国内4州で大学病院、クリニック、退役軍人病院など機能の異なる医療機関で計6週間の実習を終え、各州の人口構成や社会経済的格差、病院ごとの役割や診療科間の違いを知ることができた。ルイジアナ州ではホームレスの退役軍人のアウトリーチ活動に同行したが、精神科、一次診療、法務、研修医などさまざまな部門が協力して退役軍人のサポートを行っているのが印象的だった。実習を終え気付いたのは、日本のこともよく知らなかったことだ。医学はもちろん、自国の歴史や文化も知らないことばかりだと感じた、次に機会があればもっと日本を多くの人に伝えられるようにしたい。



●アウトリーチ活動の車の前で

佐藤大介さん 〈モンゴル国立医科大学日本病院（モンゴル）〉

本学日本人初のモンゴル研修

IUHWの医学生として初めてモンゴルを研修先に選んだ。実習先は日本の無償協力で2019年に整備された高次医療サービスの拠点病院。初めての海外だったが、本学のモンゴル人留学生に支えてもらい、実習に集中できた。外来見学や身体診察、手術見学に加え、当直や現地大学での学術発表のモデレーターも経験させてもらった。文化や疾患の頻度の違いを肌で感じ、現地の先生や多職種の方々、患者さんとの関わりを通じて視野が大きく広がった。英語が公用語でない国での海外実習を学生のうちに経験できたことは、IUHWならではの貴重な機会だった。



●脳神経外科の手術を見学



●学術発表を終えて（佐藤さんは右端）

4期生海外実習の総括

国内では得難い体験、実践的に習得 岡本 秀彦 医学科長 医学教育統括センター長

第4期生はほぼ全員が海外臨床実習に参加し、特段の支障なく研修を終えることができた。参加学生は、日本とは異なる医療環境下において、文化的差異や医師・患者関係の様式、英語によるコミュニケーションの重要性について実践的に習得した。これらの経験は、国内研修では得難い知見を提供し、

視野の拡張と異文化間コミュニケーション能力の向上に大きく寄与するものと評価される。

今回の海外臨床実習で得た成果は、今後医療従事者として必要となる柔軟な対応力及び国際的視座の涵養に資する貴重な財産であると考えられる。

Topics トピックス

IUHWグループにおける注目の出来事や話題を紹介します

柳川高等学校と国際医療福祉大学グループが包括的連携協定に調印

7月3日、大川キャンパスにて柳川高等学校（福岡県柳川市）と国際医療福祉大学グループは、古賀賢 柳商学園理事長・柳川高等学校校長、高木邦格理事長、鈴木康裕学長などが出席し、「次世代を担う医療人材の育成」をめざした包括的連携協定に調印した。

調印式で高木理事長は「柳川高校の生徒に様々な仕事を理解してもらい、選択肢の幅を広げていただきたい」と述べ、連携による人材育成に期待を寄せた。

（九州地区広報部長 神塚泰史）



●左から、鈴木学長、吉戒九州学園理事長、高木理事長、古賀柳商学園理事長、綿貫柳川高校学監



●柳川高校生徒会の取材班も調印式に参加した

第13回 キッズスクール開催

8月6日、大田原キャンパスにて「第13回キッズスクール」を開催した。楽しみながら医療福祉の世界を体験するこの企画に、小学生57人、中学生57人が、それぞれ4つのグループに分かれて参加した。

小学生は、患者体験を通して体のしくみや働きを学ぶ「利用者コース」に挑み、車イスに乗ってレースをしたり、指文字での会話、緑内障・白内障の見え方の体験など、5つのプログラムを体験した。中学生は、医療福祉の現場を体験しながら、さまざまな職業を学べる「従事者コース」に挑み、人命救助や自働具を使った調理、血液型判定や実際にCTを動かす体験など、6つのプログラムに参加し、医療福祉への理解を深めた。

体験後には、新井田孝裕副学長から各グループの代表者を通じて、参加者全員に「ヘルスケア・ジュニアリーダー（HJL）」の認定証が授与され、今回のキッズスクールは幕を閉じた。

（大田原キャンパス総務課 深澤望）



●盲導犬との歩行体験



●血液型判定検査の様子



●人命救助体験

主催：国際医療福祉大学、大田原市、大田原市教育委員会 後援：栃木県、那須塩原市、那須塩原市教育委員会、那須町、那須町教育委員会

第29回あいおいニッセイ同和損害保険 奨学生認証式

第29回「あいおいニッセイ同和損害保険奨学生認証式」が6月26日、あいおいニッセイ同和損害保険の本社（東京都渋谷区）で行われた。昨年に続き今年度も鈴木康裕学長をはじめ本学の職員が同席の下、奨学生9人全員が参加し、同社の新納（にいろ）啓介社長から認証状を手渡された。

認証式では、奨学生1人ひとりが決意表明を述べた。新納社長からは「奨学生として認証された皆さん、誠におめでとございます。皆さんの大変立派な決意表明に勇気をもらいました。皆さんのめざす医療福祉分野は人々の命や暮らしに直結する尊い仕事であると思います。高齢化が進む時代に、皆様のような若者が医療・福祉の道を志してくれるのは、日本のみならず、グローバル社会にとって何よりの希望です」という激励の言葉が贈られた。

鈴木学長は、あいおいニッセイ同和損害保険の長年にわたる支援に感謝の意を表した上で「建学の精神である『共に生きる社会

の実現』を目標に、チーム医療・チームケアに貢献し、真の国際性を身に付けた医療人をこれからも養成してまいります。医療福祉系大学は実習も多く大変忙しい日々を過ごしている学生が多いのですが、ここにいる奨学生の皆さんは、御社からのあたたかいご支援のおかげで、学業に専念できることと思います。本学は今年開学30周年を迎えましたが、今後も御社のご恩に報い、次の30年も着実に歩んでまいりたいと思います」と述べた。

（広報部 山崎香里）

第29回あいおいニッセイ同和損害保険奨学生	
大田原キャンパス	
木野内 咲希さん（保健医療学部看護学科2年）	
齋藤 溪佑さん（保健医療学部作業療法学科2年）	
前川 礼佳さん（薬学部薬学科2年）	
成田キャンパス	
NARANBAT BATSAIKHANさん（医学部医学科1年）	
斎藤 美来さん（成田薬学部薬学科2年）	
須合 陽香さん（成田保健医療学部放射線・情報科学科2年）	
東京赤坂キャンパス	
石川 萌さん（赤坂心理・医療福祉マネジメント学部心理学科2年）	
小田原キャンパス	
境 里玖斗さん（小田原保健医療学部理学療法学科2年）	
大川キャンパス	
首藤 凜さん（福岡保健医療学部看護学科2年）	



●認証式参加者全員で記念撮影



●新納社長と記念撮影する奨学生

2025年度 IUHW奨学金授与式

アジア各国からのフルスカラシップ奨学生に対する2025年度IUHW奨学金授与式が5月19日、東京赤坂キャンパスの講堂で行われた。今年度は、医学部生12人（モンゴル3人、ブータン2人、ベトナム4人、カンボジア3人）と大学院生2人（モンゴル2人）に証明書が手渡された。また、授与式には出席できなかった公衆衛生専門職大学院の3人の留学生も授与の対象となった。

山本尚子副学長が司会を務めた授与式には、高木邦格理事長、鈴木康裕学長、矢富裕大学院長のほか、駐日カンボジア大使館のトゥイ・リー特命全権大使、駐日ベトナム大使館のグエン・ドック・ミン公使・次席代表、駐日モンゴル大使館のアルザフグイ・デルゲルマー公使・参事官、前モンゴル大使の小林弘之特任教授、前厚生労働省・国際保健福祉交渉官の井上肇氏が参加した。

高木理事長は挨拶の締めくくりに「健康に気を付けて、本学の奨学生として勉学に励み、在学中に母国の医療水準向上のために何を勉強したらいいか、よく検討していただければと思います。将来、皆様がアジアの医療分野のリーダーとなれるよう祈念してお

ります」と激励した。その後、名前を呼ばれた留学生が一人ひとり壇上に上がり、医学部生は鈴木学長から、大学院生は矢富大学院長から証明書が授与された。

各国を代表して5人くソダム ワンチャンさん（ブータン）、マンナナさん（カンボジア）、パチュルーン エングーン（モンゴル）、レティエン タインさん（ベトナム）、エルデンサイハン ゾルザヤさん（モンゴル）>が、学び始めて間もない日本語で抱負を述べた。

ブータンのソダム ワンチャンさんは「IUHW奨学生として選んでくださり心から御礼を申し上げます。国際医療福祉大学でさまざまなことを学び、将来社会に貢献できる医師となれるよう努力いたします」、カンボジアのマン ナナさんは「本日はこのような盛大な授与式を行ってくださりありがとうございます。家族と離れて日本で暮らすことに不安がありましたが、国際医療福祉大学の教職員の皆様が親切に対応してくださったので安心して勉学に集中できます。将来はカンボジアの医療に貢献し、日本と母国の架け橋となれるよう頑張ります」とスピーチした。（広報部 山崎香里）



●参加者全員で記念撮影



●挨拶する高木理事長



●鈴木学長から一人ひとりに証明書が手渡された

2025年度年間成績優秀賞

2025年度年間成績優秀賞受賞者が下記の通り決定し、各キャンパスで表彰式が行われた。この賞は、各学科2年生以上を対象とし、学業成績などが優れた学生への顕彰を目的としている。受賞者には奨学金が授与される。今年度は5キャンパス86人が受賞した。

大田原キャンパス	
保健医療学部	
看護学科	2年 石川 結菜
	3年 佐藤 みゆり
	4年 渡邊 珠枝
理学療法学科	2年 柴田 竜虎
	3年 谷口 紗雪
	4年 菊地 陽奈子
作業療法学科	2年 齋藤 溪佑
	3年 五十畑 藍
	4年 須田 有咲
言語聴覚学科	2年 山尾 あいみ
	3年 大谷 夏穂
	4年 新井 理香
視機能療法学科	2年 高橋 愛生
	3年 後藤 来生
	4年 槻山 光
放射線・情報科学科	2年 後藤 ひなた
	3年 末武 麻依
	4年 池田 楓
医療福祉学部	
医療福祉・マネジメント学科	2年 布施 美遙
	3年 上野 実乃里
	4年 坂寄 夏菜
薬学部	
薬学科	2年 内田 寛乃
	3年 小林 亜梨咲
	4年 大高 圭裕
	5年 新垣 花奈
	6年 小野 春菜



●大田原年間成績優秀賞表彰式

成田キャンパス	
成田看護学部	
看護学科	2年 高橋 祐葵
	3年 鈴木 菜央
	4年 高安 真佳
成田保健医療学部	
理学療法学科	2年 島根 琉汰
	3年 上里 彩心

作業療法学科	4年 木下 公希
	2年 木村 優里
	3年 小笹 明莉
言語聴覚学科	4年 安井 芽依
	2年 佐々木 凜音
	3年 木村 真菜
医学検査学科	4年 藤田 佳歩
	2年 佐藤 志保
	3年 中村 愛梨
放射線・情報科学科	4年 児山 愛依
	2年 関 康介
	3年 川上 恵未
	4年 大西 渉

成田薬学部

薬学科	2年 並木 夏蓮
-----	----------

医学部

医学科	2年 HUYNH PHUOC LOI
	2年 LUONG TUNG LAM
	2年 YUTSO TSEJIN ANGCHHUK
	3年 HUA PHAM NHUT HAO
	3年 NGUYEN QUANG HUY
	3年 NGUYEN TIEN HUNG
	4年 田村 晃子
	4年 樋口 真祐子
	4年 小久保 怜奈



●成田年間成績優秀賞表彰式

東京赤坂キャンパス

赤坂心理・医療福祉マネジメント学部

心理学科	2年 高市 智史
	3年 井出 眞之介
	4年 川井 若菜
医療マネジメント学科	2年 中島 百穂
	3年 田部田 香織
	4年 萩原 結香



●東京赤坂年間成績優秀賞表彰式

小田原キャンパス	
小田原保健医療学部	
看護学科	2年 中山 心暖
	3年 松平 心愛
	4年 小林 茉璃
理学療法学科	2年 渡邊 なほ
	3年 海津 有里
	4年 山仲 智子
作業療法学科	2年 大津 桃乃
	3年 早川 樹里
	4年 都 真理



●小田原年間成績優秀賞表彰式

大川キャンパス

福岡保健医療学部

看護学科	2年 糸山 陽香
	3年 永渕 世規
	3年 宮崎 正圭
理学療法学科	3年 阿部 由佳
	4年 森 琴未
	2年 近藤 優南
作業療法学科	3年 生永 瑞保
	4年 上小鶴 明花
言語聴覚学科	4年 宇賀 菜々美
	2年 山田 知歩
	3年 宮崎 真世
医学検査学科	4年 土井富 優佳

福岡薬学部

薬学科	2年 吉田 咲智
	3年 喜久山 芽依
	4年 永田 萌乃佳
	5年 石井 梨桜
	6年 中原 伶



●大川年間成績優秀賞表彰式

国際医療福祉大学成田病院

循環器内科の市民公開講座を開催

7月12日、循環器内科の市民公開講座を開催した。「気になるドキドキ・ハアハア、どうしたらいいの?〜心臓のサインを見逃さないために〜」というテーマで、循環器内科の谷本耕司郎教授が、動悸・息切れ・呼吸困難など心臓疾患の初期サインから、不整脈の診断プロセス、心房細動の治療法に至るまで、幅広い内容について専門的な視点から解説した。

参加者たちは、配布した資料へ熱心にメモを取りながら聞き入っていた。終了後には質問が相次ぎ、アンケートでも「話の大切なポイントが多く、心不全にかかわる要因を深く理解できた」といった多くの高評価な声が寄せられた。



●循環器内科・谷本耕司郎教授による市民公開講座

国際医療福祉大学病院

中国2病院の看護師への研修を実施

6月30日〜7月23日、中国の上海市第一人民医院と復旦大学附属華東医院からの看護師30名が、日本の高齢者看護および介護を学ぶため、当院および本学栃木地区のグループ関連施設で研修が行われた。両病院は中国最高等級の国家三級甲等総合病院で、最先端の医療機器を備え、高度な医療体制が敷かれている。

今回の研修プログラムでは、わが国の医療制度や看護部門の業務内容に関する講義にはじまり、当院のさまざまな部門の見学が行われた。また、中国と日本の医療専門職の業務範囲や病院機能の相違点などを確認。さらに、当院の看護部やマロニエ苑、栃の実荘の協力のもと、病棟・施設での臨床業務研修も受けていただいた。

中国の看護師の皆さんからは、「研修は大変有意義で、実り多いものだった」との喜びの感想と感謝のお言葉をいただいた。

(総務課 水谷ゆりな)



●上海市第一人民医院の看護師の皆さん



●復旦大学附属華東医院の看護師の皆さん

心臓外科・呼吸器内科・循環器内科の市民公開講座を開催

8月2日、3診療科の市民公開講座を開催。「“足の血栓”が肺を襲う!? エコノミークラス症候群の怖さ〜深部静脈血栓症から急性肺塞栓症、そして慢性血栓性肺高血圧症へ〜命を守るために知っておきたい3つの病気と専門医の役割〜」をテーマとし、心臓外科の石田敬一教授が「深部静脈血栓症〜急性肺塞栓症」について、呼吸器内科部長の坂尾誠一郎副院長が「〜呼吸器内科医の立場から〜」について、循環器内科の杉村宏一郎教授が「難病に挑む〜診断と治療〜」について、それぞれ講演し、熱心に耳を傾ける多くの参加者の姿が見受けられた。

終了後の質問も多く、アンケートでは「日本でも指折りの先生方の超プロ医学セミナーは、とても効果的で聞けてよかった」「成田にすばらしい先生がいる。近くにすごい手術ができる病院があって安心した。心強い」との声が多く寄せられ、大好評であった。

次回の市民公開講座は10月25日、新生児集中治療部長の鹿嶋晃平教授によるNICUに関する講座を予定している。

(総務広報課 畠山実大)



●質疑応答の様子
(左) 石田敬一教授 (中) 坂尾誠一郎副院長 (右) 杉村宏一郎教授

国際医療福祉大学三田病院

「赤坂国際フェスティバル」健康教室で、脳神経内科部長岩田信恵副院長が登壇

8月30日、本学の東京赤坂キャンパスにて「赤坂国際フェスティバル」を開催。来場者数は昨年を大きく上回り、健康教室も約90人の方に参加いただき大盛況となった。

健康教室は午前・午後の二部制で、午前の部は「これからの妊娠・出産」というテーマで山王病院が、午後の部は当院が担当。「物忘れが気になることはありませんか?〜早めに対応したい認知症の症状、治療、予防についてお教えします〜」というタイトルで、脳神経内科部長の岩田信恵副院長が講演を行った。

およそ1時間の講演で、認知症の原因や症状、診断・治療・予防、新薬に関する話題、介護する方へのアドバイスなどをわかりやすく解説し、質疑応答では、参加者から多くの質問が寄せられた。ご高齢の方をはじめ、介護をするご家族や医療従事者の方、学生の方などさまざまな立場の幅広い年齢層の方に参加いただき、多くの方の高評をいただいた。

(総務課 山本悦子)



●講演をする岩田副院長



●講演の様子

国際医療福祉大学熱海病院

「新入職員リフレッシュ研修」を実施

本年度の入職職員を対象に7月5日、リフレッシュ研修を実施した。

午前中は院内で研修。入職からの3か月間を振り返り、改めて自己の成長を確認しつつ今後の課題を見出した。さらに、KYT(危険予知トレーニング)では、医療安全について意識を高めた。

午後は、相模湾を一望できるキャンプ場「なみのこ村」へ移動。新入職員61人のほか、各部署の先輩職員や所属長を含めた総勢92人が参加し、バーベキューを楽しんだ。部署の垣根を越えて交流を深め、同期同士の絆を強めたり先輩に悩みを打ち明けたりと、入職以降の苦労を分かち合った。その後のゲーム大会でも大いに盛り上がるなど、全員が和やかで楽しい時間を過ごした。

今回の研修の楽しい思い出を胸に、患者様によりよい医療をご提供するため、全員が一丸となって前進してゆく決意を新たにした。

(人事課 木村玲於奈)



●参加者全員で記念写真

国際医療福祉大学塩谷病院

「ふれあい看護体験」を開催

8月2日、当院では栃木県内の高校生を対象とした「ふれあい看護体験」を開催し、矢板高校や鹿沼東高校など16校から34人が参加した。全員が白衣に身を包み、隣接する塩谷看護専門学校を見学したり、入院病棟で看護体験学習として直接患者様と笑顔で会話をしたりする姿が見られた。終了後には、本学大田原キャンパス看護学科の学生と交流の時間を設け、最後に相馬康子看護部長より参加者一人ひとりに修了書を授与した。

参加者からは、「患者様への接し方など丁寧に仕事をしていて、とても素敵だと思った」「手術室に入るだけでも貴重な体験なのに、実際の器具なども手に触れることができ、とてもよい経験になった」「いつまでも輝き続けることができるあこがれの職業。改めて看護師になりたい気持ちが強くなった」など大変好評であった。

今後も、看護師という職業への理解を深めることができるこの活動を長く継続していきたいと思う。

(総務・人事課 後藤文栄)



●参加者同士で血圧測定体験



●入院患者様に対する清拭体験

国際医療福祉大学市川病院

3年ぶりに糖尿病教室が再開

6月21日、さまざまな事情で中断していた糖尿病教室を約3年ぶりに開催した。

糖尿病・代謝・内分泌内科部長として1月に着任した中條大輔医師を中心に、同科の体制と外来強化をめざしてさまざまな対策に取り組んでいるが、糖尿病教室はその一環である。医師に加え、看護師、管理栄養士、理学療法士、薬剤師、臨床検査技師といったメディカルスタッフによる食事・運動・予防・治療の幅広く正しい知識をご提供し、ライフスタイルの見直しのきっかけとなるようめざしている。また、中條医師の研究分野である1型糖尿病に関する最新の情報や治療法もご紹介していく。8月23日には、再開後第2回目となる糖尿病教室も開催し、今後は2か月ごとに実施していく予定だ。

糖尿病教室のほかにも、SNSを活用して新たな患者様層へのアプローチを行い、ネットワークが広がることによる患者様紹介につなげていきたいと考えている。

(総務・人事課 高田聡)



●第1回糖尿病教室



●第2回糖尿病教室

山王病院

産科サービス刷新 快適性と満足度の向上へ

2025年7月より当院の産科・パースセンターでは、産後の入院生活をより快適にするため各種サービスを刷新した。夕食(日・祝日を除く)は、院内のレストランオープンによる提供へ変更。季節の食材を使った彩り豊かなメニューは、入院中の方々から好評をいただいている。

病室環境の快適性も強化し、全室にRefaのドライヤーとシャワーヘッドを導入。産後の肌や髪にやさしいケアを実現した。また、オリジナルベビー肌着やミネラルウォーター、出産祝い品も順次リニューアルを進めている。

10月からは妊婦健診等のWEB予約システムも開始予定で、さらなる利便性と満足度の向上を図り、より選ばれる病院への進化をめざしていく。

(総務課 茂木彩)



●季節の食材を使った夕食

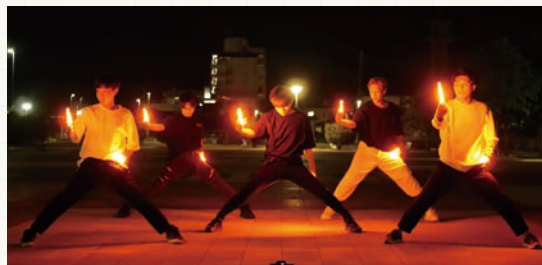


●充実した病室のアメニティ

各キャンパスの学生たちが思い思いに活躍するクラブ・サークルをご紹介します。

大田原キャンパス

ヲタ芸同好会ルテア



練習風景

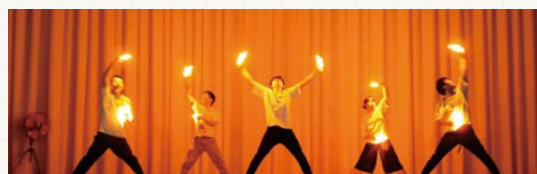
ヲタ芸同好会ルテアではヲタ芸の魅力を伝えるべく日々練習に励んでいます。ヲタ芸とは、暗所でサイリウムという光る棒を振り、軌道を魅せるパフォーマンスを指します。腕や肩、手首を使って、迫力ある大きな動作から繊細で細かな動作までの幅広い動きを活かして光の軌道を魅せます。これまでの活動や文化祭といった発表の場でも「とても綺麗だった」「芸術」など、たくさんの感想をいただいています。部長である私自身も改めて自分以外の角度から見たときに、ヲタ芸の魅力を実感しました。見る人にとって「沸き立つような勇気を、脆く儚い幻想を、光が弾ける感動を与える」—それがヲタ芸だと私は確信しています。

また、ヲタ芸と一言で言っても実際には幅広い分野があります。四方八方に突いて斬って回したりの基礎的な動きで構成される基本技、腕を組んだりして複雑な円運動を展開

するトーチ技などから、さらに分岐をして数多くの技が存在しており、各々が自分の芸風に合わせて技を覚え、練習し極めていきます。

ヲタ芸では技を覚えることを「剥がす」と言うなど、技に限らず用語も数多く存在します。私たちルテアでは、技や用語も多種多様なヲタ芸を幅広く捉え、臨機応変に取り組み、技術の向上に努めています。ヲタ芸の文化は、知識、技術あるものが惜しむことなくそれを伝え、受け取った人がさらに次の人に伝える。長い年月を経ても、そうした技や動作が今に生きています。ルテアでも年齢や学年問わず、一人ひとりが自由に技を剥がし、全体に共有できる環境を用意しています。毎週木曜日、18:00よりF101教室やL棟前広場にて活動しています。みなさんのご参加、大変心よりお待ちしております。

ヲタ芸同好会ルテア 部長
保健医療学部 放射線・情報科学科2年
長山 拓磨



風花祭でのステージ発表

ご寄附のお願い

高い志を持つ医療人を1人でも多く育てるために

開学30周年という記念すべき年を迎えた国際医療福祉大学は、ほぼすべての医療福祉専門職を養成することができる数少ない大学のひとつとして、これからも学生の高度な教育・研究のための環境を向上して所存です。将来の医療福祉分野を牽引する医療人を1人でも多く育てるために、ぜひみなさまからのご寄附をお願いいたします。

amazonふるさと納税

大田原市・大川市 大学支援事業寄附金について

- 大学支援事業寄附金を指定して、大田原市・大川市にふるさと納税すると、寄附金の95%が大田原市・大川市から国際医療福祉大学に補助金として交付されます。
 - 上限額*までは、いくら寄附しても実質負担は2,000円。
 - 大田原市・大川市在住の方でも寄附できます。
- ※上限額は収入や家族構成等によって決まります。

大田原版▼

大川版▼

amazon
ふるさと納税
サイト



国際医療福祉大学開学30周年記念募金

30周年記念募金 募集概要

1. 募金名称 国際医療福祉大学開学30周年記念募金
 2. 募金目的 大学各キャンパスおよび附属施設の教育研究環境の充実を図るための以下の資金に充当
 - 学部・大学院研究機能の強化
 - 校舎や運動施設の整備
 - 奨学金の充実
 - 基礎医学の教育研究強化
 - 薬剤師育成に向けた学修環境の充実
 3. 募集期間 2023年6月～2026年6月
 4. 目標額 30億円
 5. 募金金額 個人 1口 10,000円
法人 1口 100,000円
- ※ご寄附は任意でございます。

詳しくはこちら▼

